

主要産地における平成29年産水稻の生育状況等について 第8報 (7月6日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成29年7月7日)

道府県	生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(全道)	生育は、平年並に推移している (遅1日)。草丈は27.3cmでやや短く (平年差-1.9cm)、葉数は6.6枚で平年並 (平年差-0.2枚)、葉数は199本/m ² で少ない (平年差-27本)。 (北海道農政部 6月15日現在)	・7月の病害虫の発生量は、葉いもちや平年並、ニカメイガは少、ウンカ類は平年並、イネドロマシはやや少、アカヒゲホソミドリカスミカメ (第2回)は平年並、フタオビコヤガは少の予報 (北海道病害虫防除所 6月29日公表)
	(生育)	(空知) 6月上旬の低温や日照不足により、生育はやや停滞したが、平年並に進んでいる (遅1日)。草丈、葉数は平年並、茎数はやや少。(空知総合振興局 6月15日現在) (石狩) 草丈は平年並、葉数はやや多く、茎数は多い。茎数はほ場間差がある (早3日)。(石狩総合振興局 6月15日現在) (後志) 草丈、葉数は平年並、茎数は少ない (遅2日)。(後志総合振興局 6月15日現在) (胆振) 草丈、葉数は平年並、茎数は多い。生育は平年並。(胆振総合振興局 6月15日現在) (日高) 草丈、葉数は平年並、茎数は少ない。生育は平年並 (遅2日)。(日高総合振興局 6月15日現在) (渡島) 草丈は平年並、葉数はやや少、茎数は少。生育は平年並に推移 (遅1日)。(渡島総合振興局 6月15日現在) (檜山) 草丈はやや短、葉数はやや少、茎数は少ない。生育は平年よりやや遅れている (遅3日)。(檜山振興局 6月15日現在) (上川) 草丈は短、葉数はやや少、茎数は少。生育は平年よりやや遅れている (遅3日)。(上川総合振興局 6月15日現在) (留萌) 草丈はやや短、葉数は平年並、茎数はやや少。生育は平年並に進んでいる (早1日)。(留萌振興局 6月15日現在) (オホーツク) 草丈は短い、葉数は平年並、茎数は少ない。低温・曇照により生育はやや停滞した。 (オホーツク総合振興局 6月15日現在)	
青森	(生育)	<6月30日現在、県生育観測ほの生育> 「つがるロマン」は草丈がやや短く、葉数及び葉数がほぼ平年並、「まっしぐら」は草丈が短く、葉数及び葉数が少なかった。葉数からみた生育は、「つがるロマン」がほぼ平年並、「まっしぐら」がやや遅れているもの、生育は回復傾向にあり、概ね順調である。 「つがるロマン」(全県8地点)の草丈は41.3cm (平年比95%)、葉数は20.7本/株 (平年比101%)、葉数は9.2枚 (平年差-0.1)。「まっしぐら」(全県13地点)の草丈は45.9cm (平年比93%)、葉数は17.8本/株 (平年比95%)、葉数は8.4枚 (平年差-0.4)。「つがるりん」(下北1地点)の草丈は40.8cm (平年比101%)、葉数は15.2本/株 (平年比83%)、葉数は7.6枚 (平年差-0.3)。 (青森県 7月5日付)	・7月の病害虫の発生量は、葉いもち、稲こうじ病は平年並の予報。コバネイナゴ、フタオビコヤガはやや多く、アカヒゲホソミドリカスミカメは平年並の予報。 (青森県病害虫防除所 6月28日公表)
	(生育)	<6月30日現在の生育状況> ・黒石の「つがるロマン」は、草丈が42.0cmで平年より4.6cm短く、株当たり葉数は29.8本で平年並、葉数は8.8葉で平年より0.4葉少なかった。また、「青天の霹靂」は、草丈が47.1cmで前年より3.8cm短く、株当たり葉数は29.2本で前年より4.4本多く、葉数は8.4葉で前年より0.2葉多かった。 ・十和田の「まっしぐら」は、草丈は53.5cmで概ね平年並、株当たり葉数は24.9本で平年より2.0本多く、葉数は9.1葉で平年より0.2葉多かった。 (青森県産業技術センター農林総合研究所 7月4日付)	
岩手	(生育)	・6月26日現在、農業研究センター (北上)の草丈は平年を下回り、葉数は平年を上回っている。葉齢は、「あきたこまち」は概ね平年並で、「ひとめぼれ」、「銀河のしずく」は平年を下回っている。葉色 (SPAD値) は、「銀河のしずく」は概ね平年並で、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」は平年を下回っている。 ・東北農業研究所 (軽米)の「いわてっこ」は、草丈、葉数、葉齢、葉色 (SPAD値)とも平年を下回っている。 (岩手県農業研究センター 6月28日付)	・7月の病害虫の発生量は、葉いもちや平年並、紋枯病はやや多、稲こうじ病は少の予報。斑点米カメムシ類 (アサジカスミカメ) (第1世代)はやや多、コバネイナゴはやや多、フタオビコヤガ (第2世代)は平年並の予報。 (岩手県病害虫防除所 6月28日付)
	(生育)	・6月23日の一斉生育調査 (22カ所、延べ37品種)の結果、県全体の生育は草丈31.2cmで平年より8.4cm短く、葉数は364本/m ² で平年より少ない (平年比83%) 状況。葉数は7.6葉で平年より0.8葉少なく、生育は平年より4~5日程度遅れている。葉色の目安であるSPAD値は、平年より低い状況 (平年差-7.3)。 直播栽培は、苗立ち本数が少ない圃場もあり、6月上旬の低温少日照の影響もあって生育がやや遅れている圃場もある。 (岩手県 6月29日付)	
宮城	(生育)	・6月30日現在、生育は平年より1日程度遅いものの、必要な葉数が確保されるなど、概ね順調となっている。草丈は40.8cm (平年比82%)、1m当たり葉数は567本 (平年比103%)、葉数は9.6枚 (平年差-0.2枚)、葉色はG値が42.8 (平年差+2.3)となっている。(県全体の平均) (宮城県 7月3日付)	・巡回調査 (6/27~30)の結果、県内全域の水田周辺で斑点米カメムシ類 (アサジカスミカメ) が多発。 (宮城県病害虫防除所 7月5日公表)
	(生育)	(原原) 6月30日現在、ひとめぼれ (生育調査ほ3カ所平均) は、葉数 (平年差+0.1枚) からみると、生育はほぼ平年並に進んでいる。葉数は、平年より多く (平年比120%)、有効葉数 (460本/m ²) が確保されており、最高分げつ期を迎えていると考えられる。草丈は短く (平年比84%)、葉色 (G値) は平年並 (平年差+0.6)。葉数と葉色はほ場によって差がある。(宮城県農業改良普及センター 7月4日付) (登米) 6月30日現在の生育状況は、平年に比べ、草丈は短め、葉数は平年並だが、ほ場によりバラツキがみられる。葉数は少なめで、生育はやや遅れ、葉色は濃い。生育は引き続き平年より遅れているが、前日に比べ葉数が増加し、葉色が濃くなってきた。 直播栽培の生育状況は、前年に比べ、草丈はほ場によりバラツキがみられるが平年並。葉数はほ場によりバラツキがみられるがやや多い。葉数は少なめで、生育はやや遅れ、葉色はやや濃い。生育は引き続き前年より遅れているが、葉数はやや多く経過している。 (宮城県米づくり推進委員会地方本部登米農業改良普及センター 7月4日付) (大崎) 6月30日現在、草丈は平年に比べ短い。葉数は、北部平坦のササニシキ及び西部丘陵のまなむすめ、みやこがねもちは平年に比べて多く、その他の地点・品種は平年に比べて少ない。葉数は、平年を下回っている。葉色は、西部丘陵のまなむすめ及び山間高冷のやまのしずくを除いて、やや濃い傾向にある。 (大崎農業改良普及センター 7月3日付) (美里) 6月30日現在、草丈は前年および平年より短く、葉数は前年および平年より少ない。 葉数は鹿島台ササニシキでは平年並、葉色はひとめぼれ、ササニシキともに平年より濃い。 ひとめぼれの県平均は、草丈は40.5cm (平年比81%)、葉数は534本/m ² (平年比101%)、葉数は9.6枚 (平年差-0.3枚)、葉色 (SPAD値) は43.1 (平年差+2.3)。 直播栽培 (鉄コーティング湛水直播) のひとめぼれ (小年田) は、草丈は31.0cm (前年比90%)、葉数は468本/m ² (前年比100%)、葉数は7.9枚 (前年差-0.5枚)、葉色 (SPAD値) は42.2 (平年差-0.8)。 (美里農業改良普及センター 7月3日付) (本吉) 6月30日現在、気仙沼市本吉町の生育調査ほ (ひとめぼれ) では、草丈、葉数、葉数ともに平年を下回っているが、有効葉数は確保されたと思われる。管内の生育については、生育がやや遅れていたが回復傾向にある。管内の多くのほ場においても、概ね有効葉数は確保されたものとみられる。 直播栽培普及展示ほの生育概況 (鉄コーティング湛水直播) は、草丈は平年並、葉数は平年の1.7倍程度となっており、順調に生育は進んでいる。 (宮城県本吉農業改良普及センター 6月30日付) (仙台) 6月20日現在、ひとめぼれ及びササニシキの生育は、葉数から判断して平年より1~2日程度遅くなっている。葉数は、平年よりやや少なめに推移している。ひとめぼれ (管内平均) の草丈は30.9cm (平年比81%)、葉数は382本/m ² (平年比102%)、増加葉数 (前調査からの増加分) は158本/m ² (平年比112%)、葉数は8.4枚 (平年差-0.2枚)、葉色 (G値) は40.0 (平年差-1.1)。ササニシキ (管内平均) の草丈は29.8cm (平年比80%)、葉数は306本/m ² (平年比94%)、増加葉数は129本/m ² (平年比90%)、葉数は8.1枚 (平年差-0.4枚)、葉色 (G値) は38.6 (平年差-2.3)。 (宮城県仙台農業改良普及センター 6月22日付) (石巻) 6月20日現在の生育調査ほの生育状況は、ひとめぼれ、ササニシキともに、葉数は概ね平年並となっている。既にひとめぼれの目標有効葉数 (480~500本/m ²) を確保しているほ場が見られる。ひとめぼれ、ササニシキともに草丈・葉色が平年より低くなっている。 乾田直播普及ほの生育状況は、苗立ち本数が少なく、不揃いだったため、草丈・葉数・葉数ともに、平年を下回っている。(石巻農業改良普及センター石巻地方米づくり推進本部 6月22日付) (本吉) 6月20日現在、生育調査ほ (ひとめぼれ) では、草丈、葉数は平年より少なく、葉数は平年より0.8枚少なく、葉色はやや濃く推移している。南三陸町入谷の生育調査ほ (ササニシキ) では、草丈、葉数は平年より少なく、葉数は平年より0.3枚少なく、葉色はやや濃く推移している。管内の生育については、平年よりやや遅れて経過している。 直播栽培普及展示ほの生育概況 (鉄コーティング湛水直播) は、草丈は平年並、葉数は平年の2倍程度、葉数は平年差+1.1枚と生育は順調に進んでいる。 (宮城県本吉農業改良普及センター 6月21日付)	
秋田	(由 利)	6月26日の水稲定点調査結果 (3品種・移種8カ所平均) によると、草丈は31.7cmで平年より短く (平年比82%)、m ² あたり葉数は388本で平年より少なく (平年比80%)、葉数は8.0葉と平年より少なく (平年差-0.7葉) となった。 田植えが遅い山間部のほ場で生育が遅れている。(6月30日付)	・7月の病害虫の発生量は、葉いもちや平年並、紋枯病、稲こうじ病はやや少ない、斑点米カメムシ類 (アサジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ) は平年並、フタオビコヤガはやや少ない、コバネイナゴは平年並、アワトウヒは多と予報 (秋田県病害虫防除所 6月30日公表)
	(雄 勝)	6月25日現在の定点調査ほ (あきたこまち8カ所) の生育は草丈30.1cm (平年比86%)、葉数266本/m ² (同72%)、葉数8.1葉 (同-0.3葉)、葉色42.6 (同94%) で、葉数からみた生育は、平年と比較して2~3日遅れている。 (6月30日付)	
秋田	(生育)	(秋 田) 6月26日現在の定点調査ほ (あきたこまち・10地点平均)の草丈は32.3cm (平年比81%) と平年より短く、1mあたり葉数は364本 (平年比92%) と平年より少なく、葉数は8.6葉 (平年差-0.5葉) と平年より少なく、葉色 (SPAD値) は41.1 (平年比92%) で平年より低くなっている。(6月30日付) (仙 北) 6月26日現在の生育状況は、草丈30.0 (平年比81%)、葉数336本/m ² (平年比80%)、葉数8.0葉 (平年差-0.6葉) で葉数から見ると、生育は5日程度遅れている。(6月30日付) (北秋田) 6月26日現在、あきたこまちで草丈35.4cm (平年比89%)、葉数429本/m ² (同81%)、葉数8.7葉 (同左-0.2) と生育が3日程度遅れ、生育量が小さくなっている。(6月30日付)	

注：この資料は、地方自治体及び出先機関等が各々のホームページで公表している資料について、一般及び関係者に周知することを目的として、米穀機構情報部が各公表資料の一部を抜粋し取り纏めたものです。各情報の詳細につきましては、末尾に明示している原資料を参照してください。

	平年に対する遅速等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等(抜粋)
山形	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在、平坦部「はえぬき」の生育は、草丈は37.9cm(平年比84%)で平年より短く、葉数は615本/m²(平年比96%)で平年並、葉数は0.1枚(平年差-0.2枚)で1日程度の遅れ。葉色(SPAD)は44.1(平年差+2.0)で平年より濃くなっている。生育は1日程度の遅れとなっている。農業総合研究センターによる幼穂の検閲調査では、早生品種の出穂は3日程度遅い予想。 6月30日現在の「つや姫」の生育は、草丈は36.8cm(平年比82%)で平年より短く、葉数は528本/m²(平年比97%)で平年並、葉数は8.8枚(平年差-0.3枚)で1~2日程度の遅れ、葉色(SPAD)は44.0(平年差+2.8)で平年より濃くなっている。(オールやまがた米づくり日本一運動本部 6月30日付) <p>(東南村山)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在、草丈は平年と比べてやや短く、葉数は平年並~やや少なく、葉数は少なく、葉色は濃い状況。幼穂からみた予想出穂期は平年よりも2~3日遅れると見込まれる。(オールやまがた米づくり日本一推進運動村山地域本部村山農業技術普及課 7月5日付) 6月30日現在、つや姫調査圃7か所の生育は、葉数展開が平年よりも遅れているため、草丈は短く推移している。必要葉数は確保されているが、移植時期や水管理によって圃場間のバラツキが大きい。管内のつや姫の出穂は、平年よりも2日程度遅れる見込み。(山形つや姫ブランド化戦略推進本部村山地域本部 村山農業技術普及課 7月3日付) <p>(鶴岡田山)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在の生育状況は、草丈は短く、葉数は平年並~多い、葉色は平年より濃い状況で、生育は平年並~4日程度遅れている。生育診断圃のはえぬき(鶴岡市矢野)は、草丈は35.3cm(平年比82%)、葉数は777本/m²(平年比110%)、葉数は9.5枚(平年差+0.2枚)、葉色(SPAD)は42.8(平年差+2.0)。つや姫展示圃の生育(鶴岡市上清水)は、草丈は36.2cm(平年比76%)、葉数は555本/m²(平年比98%)、葉数は8.8枚(平年差-0.5枚)、葉色(SPAD)は44.3(平年差+2.8)。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付) 生育はやや遅れており、出穂は2~3日程度遅くなる予想。6月30日の調査では、葉色は全般に平年より濃い圃場が多い状況。出穂期予測(6月30日幼穂調査、水田農業試験場)は、早生品種「はなの舞」では、平年より5日遅く、「あきたこまち」「たまごめ」では、出穂期は8月1~2日、いずれも4日遅い予想。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付) つや姫の6月30日の調査結果は、平年・指標に比べて、草丈は短くやや少く、葉数は少なく(2.3日程度遅い)、葉色は濃い状況。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付) 水稲直播栽培圃場圃場の生育状況(6月20日~30日)は、鉄コーティング直播栽培では、平年に比べ葉数少なく、葉数は10日程度遅れ、葉色は平年並。生育は遅れている。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付) <p>(西村山)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在、平坦部はえぬき作柄診断圃の生育状況(寒河江市高屋)は、草丈は42.5cm(平年比91%)、葉数は647本/m²(平年比109%)、葉数は9.3枚(平年差-0.2枚)、葉色(SPAD)は45.0(平年差+3.9)。葉数の進みはほぼ平年並。草丈はやや短い、葉数は圃場間のバラツキが大きい。葉色はやや濃い。出穂期は、ほぼ平年並の予想。(J A さがえ西村山 J A さがえ西村山水稲部会 村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日) 6月30日現在、つや姫の生育は、指標値と比較して、調査圃場の草丈は短く、葉数はやや多く、葉色はやや濃く、葉数は指標値並で経過している。他の圃場でも葉数にばらつきはあるものの、葉数が指標値のため、出穂期は平年並と予想。(J A さがえ西村山 J A さがえ西村山水稲部会 村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日) <p>(酒田飽海)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在、はえぬきの草丈は「平年並」、葉数は「平年並」、葉数は「やや少なく」、葉色は「濃い」。ひとめぼれは、草丈、葉数ともに「やや少なく」、葉色は「濃い」。つや姫は、草丈は「短く」、葉数は「やや少なく」、葉数は「少なく」、葉色は「濃い」。低温で少く推移していた葉数は、引き続き少ないが、「はえぬき」では「平年並」まで回復している。いずれの品種も、葉色は「濃く」急上昇している。葉数は遅れ気味。直播栽培は、低温の影響を大きく受け、生育量は不足。出穂期は、平年に比べ3日程度遅くなると予測される。生育は例年に比べ「ばらつき」がみられる。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月3日付) 6月30日現在、「つや姫」の生育は、前回の調査より葉数が急増中、葉色も濃くなってきている。草丈はやや短い、葉数はやや少ない、葉数は遅れている(圃場間差あり)、葉色(SPAD)はやや濃い(40以上あり)。生育診断圃の葉数からみて、出穂期は平年より3日程度遅れる予想。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月3日付) <p>(最上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在、生育診断圃の調査結果では、全品種で草丈短く、葉数は平年並、葉数は1~3日程度の遅れ、葉色は平年並から濃い状況。現場では、葉数が少ない圃場もあり、葉数は2~5日遅れ、葉色は圃場間の格差が大きい状況。(最上総合支庁農業技術普及課 6月30日付) <p>(置賜)</p> <ul style="list-style-type: none"> 低温等により分けつが遅れており、葉数が少なく、生育もやや遅れている。生育診断圃のはえぬきの生育状況は、草丈は短く、葉数は少なく、葉数は平年並~やや少ない。つや姫は、草丈は短く、葉数は少なく、葉数は平年並。(オールやまがた米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 6月26日付) <p>(北村山)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月20日現在のイネの生育は、平年に比べ3~4日程度遅れている。m²当たり葉数は少なく、草丈は短く、葉色はやや濃い状況。平坦部「はえぬき」(村山市)の草丈は25.0cm(平年比79%)、葉数は293本/m²(平年比74%)、葉数は1.7枚(平年差-0.5枚)、葉色(SPAD)は36.0(平年差-2.5)。平坦部「つや姫」(村山市)の草丈は29.1cm(平年比88%)、葉数は294本/m²(平年比67%)、葉数は6.9枚(平年差-0.7枚)、葉色(SPAD)は35.9(平年差-5.3)。中山間部「あきたこまち」(尾花沢市)の草丈は30.2cm(平年比94%)、葉数は441本/m²(平年比149%)、葉数は7.5枚(平年差0.0枚)、葉色(SPAD)は38.9(平年差-0.4)。(オールやまがた米づくり日本一運動村山地域実践本部 北村山農業技術普及課 6月23日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、葉いもちは平年並、紋枯病はやや少なく、斑点米カメムシ類はやや多く、フタオビコヤガイ(イネアオムシ)(第2世代)は少なく、コバネイナゴはやや少ないと予想(山形県病害虫防除所 6月28日公表)
福島	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月13日現在の農業総合センターの生育調査では、本部(郡山)の草丈、葉数、会津地域研(会津坂下)の葉数が平年を下回っている。各調査地点ともに主葉数は平年より0.2~1.0枚少なく、生育は最大4~5日程度の遅れとなっている。また、葉色は平年より濃い。(福島県農水産部 6月14日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもちの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予想(福島県病害虫防除所 6月29日公表)
茨城	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <水戸市 6月30日現在> 5月1日移植 幼穂の発育程度から予測される「あきたこまち」の出穂期は平年より3日遅く、「コシヒカリ」の出穂期は2日遅い。平年と比べ、草丈は商品種ともに短く、葉数は「あきたこまち」が平年並、「コシヒカリ」がやや多く、葉色は「あきたこまち」が濃く、「コシヒカリ」が平年並である。(茨城県農業総合センター農業研究所 7月5日付) 5月10日移植 「コシヒカリ」の主葉数の展開からみた生育は平年より1日遅い。草丈は平年より短く、葉数はやや多く、葉色はやや濃い。(茨城県農業総合センター農業研究所 7月5日付) <龍ヶ崎市 6月27日現在> 4月27日移植 6月26日時点の幼穂長は、「あきたこまち」で20.9mm、「コシヒカリ」で0.7mmであった。幼穂長から予測される出穂期は、「あきたこまち」で平年より1日早い7月12日頃、「コシヒカリ」では平年より2日遅い7月25日頃である。商品種の生育は、草丈・葉色ともに平年並である。 5月8日移植 「あきたこまち」は、6月27日時点で幼穂が1.0mm確認できた。幼穂長から予測される出穂期は平年より4日遅く、7月21日頃である。「コシヒカリ」の主葉数の展開からみた生育は、平年より5日早い。商品種の草丈は平年並、葉色は「あきたこまち」で平年よりやや濃く、「コシヒカリ」で平年並である。(茨城県農業総合センター農業研究所 7月5日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の葉いもち、斑点米カメムシ類の発生量は県下全域で平年並と予想(茨城県病害虫防除所 6月29日公表) 関東でイネ綿葉枯病(ヒメトビウンカ)の発生が「多い」と予想(農水産部 6月14日付) 県西地域、県南の一部地域でイネ綿葉枯病の発生量が多いと予想(茨城県病害虫防除所 6月12日公表)
栃木	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <早稲栽培コシヒカリの6月22日調査結果(16か所平均)> 草丈は49.4cmでやや短く(平年比95%)、葉数は576本/m²でやや多く(103%)、葉齢は10.1で平年より1.0多く、葉色は4.0で平年より0.5濃い。地域によりバラツキがあるが、葉齢から判断して、生育は平年並から1日程度遅れていると考えられる。生育診断値(葉数×葉数)は平年比92%と小さい。 早稲コシヒカリ(5月4日移植)の出穂期は、宇都宮市、大田原市とも平年より4日程度早いと推定される。(栃木県農政経営技術課 6月26日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 6月下旬~7月下旬の綿葉枯病の発生量はやや多いと予想(栃木県環境指導センター 6月16日公表) 関東でイネ綿葉枯病(ヒメトビウンカ)の発生が「多い」と予想(農水産部 6月14日付)
埼玉	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <センター内生育相> 早期栽培(5月2日植 コシヒカリ)の育苗期間は、平年並から高温で経過したものの、苗の徒長は見られず、充実度の高い苗が得られた。強風等による植え痛みもなく、活着は良好であった。移植後から高温・多照で経過したため、葉位の進展は早く推移しており、生育量は多く、順調な生育である。 早稲栽培(5月19日植 彩のかがやき)の育苗期間は、平年に比べて高温で経過したものの、苗の徒長は見られず、充実度の高い苗が得られた。強風等による植え痛みもなく、活着は良好であり、その後の生育も順調である。 <県内全般> 早期・早稲栽培とも田植作業は好天に恵まれ平年同様順調に進行し、活着は良好で初期生育は順調である。(埼玉県農業技術研究センター 6月2日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、葉いもちはやや少く、紋枯病、ヒメトビウンカ、綿葉枯病はやや多、ツマグロヨコバイはやや少、イネツトムシ(第2世代幼虫)(イチモンジセリ)は平年並、セジロウシ(フタオビコヤガイ)は平年並の予想(埼玉県病害虫防除所 6月28日公表) 関東でイネ綿葉枯病(ヒメトビウンカ)の発生が「多い」と予想(農水産部 6月14日付)
千葉	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月26日現在、4月20日頃に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は平年と比較してやや早く幼穂形成期を迎えた。6月第3、4半旬はやや低温に推移し、「ふさおとめ」、「ふさこがね」の出穂期は平年並になると予測される。「コシヒカリ」の幼穂形成期も平年並と予測される。また、5月1日頃に移植した「コシヒカリ」の葉数はやや多く多くなっている。(千葉県農水産部 6月28日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 関東でイネ綿葉枯病(ヒメトビウンカ)の発生が「多い」と予想(農水産部 6月14日付) 向こう1か月間の病害虫の発生量は、いもち病(葉いもち)、ばか病は平年並、イネドロオシムシは少、ジャンボタニシはやや多、イネクサカメムシは平年並、ヒメトビウンカはやや多、セジロウシはやや少の予想(千葉県農林総合研究センター 6月14日公表)

	<p style="text-align: center;">平年に対する遅速等</p>	<p style="text-align: center;">同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）</p>
<p>新潟</p>	<p>・6月29日現在、コシヒカリは、県平均で指標値に比べ、草丈は「短い」、葉数は「やや多い」、葉色の進みは「並」、葉色は「並」の状況。地域別には、葉数は上越、十日町、新発田で多く、葉色は魚沼、上越で濃くなっている。</p> <p>・こしいぶきは、葉数は「短い」、葉数は「多い」、葉色の進みは「やや遅い」、葉色は「やや濃い」状況。</p> <p>・こしいぶき コシヒカリの出穂期はいずれも平年より2日程度遅くなると予想される。</p> <p>（新潟県農林水産部 6月30日付）</p> <p>（津南町） 6月30日現在の生育状況は、草丈は「短い」、葉数は「平年並」、葉数は「平年並」、葉色は「平年並」の状況。出穂期は、平地地、台地ともに平年より2日遅い見込み。 （十日町地域農業振興協議会 7月6日公表）</p> <p>（十日町） 6月30日現在の生育状況は、全般的に草丈は「短い」、葉数は「多い」、葉数は「平年並」、葉色は「やや濃い」状況。5月中旬までに移植された場合は、中干し・溝切りが実施されているものの葉色が濃く、分けつ旺盛で頭小分けでの発生が見られる。5月下旬以降に移植された場合は、葉色が回復し、葉数確保が図られてきている。出穂期は、平地地、高標高地ともに平年に比べて2日遅い見込み。 （十日町地域農業振興協議会 7月6日公表）</p> <p>6月29日現在、5月中旬までに移植された場合は、中干し・溝切りが実施されているものの葉色が濃く、分けつ旺盛で頭小分けでの発生が見られる。5月下旬以降に移植された場合は、葉色が回復し、葉数確保が図られてきている。コシヒカリ（29日頃）の生育は、草丈は短く、葉色は並～やや濃い状況であるが、台地は葉色の濃い見込みが多い。出穂期は全品種ともに平年と比較し、平地地、高標高地ともに3日遅い見込み。 （十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会 6月29日付）</p> <p>（上越） 6月29日現在、コシヒカリの生育は、草丈短く、葉数は多く、葉色は濃く、生育過剰傾向。コシヒカリの出穂期は、平年並の7月10日の見込み（前年に比べ4日程度遅い）。こしいぶきは7月31日頃、新之助は8月11日、みずほの種きは8月14日頃の見込み。 （上越農業普及指導センター 7月6日付）</p> <p>6月29日現在、「コシヒカリ」の生育は、草丈は短い（指標値比80%）、葉数は多い（指標値比145%）、葉数は並（指標値比-0.1葉）、葉色は濃い（SPAD値+3.3）。低湿が続いているため、草丈は短くなっているが、葉色は濃く、葉数は急増し、過剰となっている。「こしいぶき」の生育も、草丈は短く、葉数は多く、葉色は濃くなっている。 （上越農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（長岡） 6月29日現在の生育は、指標値に比べ、草丈は短い、葉数は並、葉数は並、葉色は並となっている。幼穂形成期は、前年より5日程度遅いと予想。コシヒカリの生育（定点調査7カ所の平均）は、草丈は40cmで指標比75%、葉数は463本/m²で指標比99%、葉数は9.5葉で指標差-0.1葉、葉色（SPAD値）は40.2で指標差+0.6である。 （長岡農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>6月19日現在、幼穂形成期及び出穂期は、前年より5日程度遅く、平年より3日程度遅いと予想される。 （長岡農業普及指導センター 6月22日付）</p> <p>（新発田） コシヒカリの生育概況（6月29日調査）は、草丈は40cmで指標比81%（短）、葉数は535本/m²で指標比119%（多）、葉数は6葉で指標差-0.1葉（3葉）、葉色は葉緑素計39.0で指標差-0.5（並）、葉色の進みは指標値並となっている。出穂は平年に比べ3日程度遅いと予想される。また、早生の出穂期は平年より4日遅い予想。 （新発田農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（新潟） 6月29日調査の結果、コシヒカリは目標に比べ、草丈「短」、葉数「並」、葉数の進み「遅い」、葉色「やや淡」。低温傾向が続く。草丈は短く葉数の進みは遅れているが、葉数は確保できている。</p> <p>コシヒカリ（調査点9）の草丈は39cm（指標比74%）、葉数は486本/m²（指標比100%）、葉数は9.4葉（指標差-0.8葉）、葉色（SPAD値）は36.9（指標差-1.5）。こしいぶき（調査点2）の草丈は39cm（指標比78%）、葉数は577本/m²（指標比105%）、葉数は10.1葉（指標差-0.4葉）、葉色（SPAD値）は41.1（指標差+2.1）。新之助（調査点3）の草丈は31cm（指標比82%）、葉数は504本/m²（指標比87%）、葉数は9.7葉（指標差-0.8葉）、葉色（SPAD値）は38.9（指標差+0.9）。出穂期は、平年よりこしいぶきが3日、コシヒカリで4日遅いと予想。 （新潟農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（生育）</p> <p>（巻） 6月29日調査の結果、生育の特徴は、指標値に比べ草丈は「短い」、葉数は「並」、葉数は「やや遅い」、葉色は「並～やや濃い」。コシヒカリ（西蒲区全体）の草丈は42cm（指標比76%）で「短い」、葉数は487本/m²（指標比101%）、葉数は9.6葉（指標差-0.5葉）、葉色（SPAD）は39.7（指標差+0.7）で「並～やや濃い」。こしいぶき（管内8カ所）の草丈は41cm（指標比88%）、葉数は576本/m²（指標比109%）、葉数は9.8葉（指標差-0.7葉）、葉色（SPAD）は41.5（指標差+1.5）。新之助（管内8カ所）の草丈は33cm（指標比81%）、葉数は525本/m²（指標比87%）、葉数は9.6葉（指標差-0.6葉）、葉色（SPAD）は39.4（指標差+2.4）。早生の出穂期は、4日程度遅れる予想。 （巻農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（三条） 6月29日の調査結果（管内コシヒカリ35カ所、こしいぶき8カ所平均）は、コシヒカリの草丈は43cm（指標比79%）、葉数は511本/m²（指標比100%）、葉数は9.6葉（指標差-0.1葉）、葉色は39.8（指標差+0.8）。こしいぶきの草丈は40cm（指標比77%）、葉数は552本/m²（指標比100%）、葉数は9.7葉（指標差-0.8葉）、葉色は42.7（指標差+4.7）。コシヒカリの草丈は短い。葉数は急増し葉数・葉色とともに「指標値並」となった。こしいぶきは、依然、指標値に比べ3日程度遅れており、葉色も濃く推移している。 （三条農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（魚沼） 6月29日のコシヒカリ生育調査結果（14地点平均値）は、草丈38cm（指標値比82%）、葉数488本/m²（指標値比98%）、葉数は8.9葉（指標値差-0.6葉）、葉色（SPAD値）40.4（指標値差+3.4）。指標値に比べ、草丈は短い、葉数は並（多～少）、葉数はやや遅い、葉色は濃い。葉数はほぼ間差が大きく、5月下旬植えのほ場では特に少ない。 （魚沼農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（柏崎） 6月29日現在、こしいぶきとコシヒカリともに草丈は短いものの、生育は順調。コシヒカリの葉数はやや多くなっている。こしいぶき（3カ所平均）の生育状況は、草丈は38cm（指標比71%）、葉数は527本/m²（指標比101%）、葉数は9.8枚（指標差-0.1枚）、葉色（SPAD）は40.1（指標差+0.1）。コシヒカリ（6カ所平均）の生育状況は、草丈は41cm（指標比76%）、葉数は543本/m²（指標比113%）、葉数は9.6枚（指標差-0.2枚）、葉色（SPAD）は39.8（指標差+1.8）。 （柏崎農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>6月29日現在、新之助の生育は、前年と比較し2日程度遅れている。草丈は短く、葉数は並だが前回の調査より大幅に増加している。葉色はほ場で差があるがやや濃い状況。 （柏崎農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>（糸魚川） 6月29日現在、コシヒカリ（田植え日：5月2～22日）の生育状況は、指標値に比べ草丈は短い、葉数は多い、葉数はやや少、葉色は濃い。5月10日頃までの田植えほ場では、緑色が始まっている。中干しを始めたほ場では急激に緑色している。下葉が黄化しているほ場もみられる。5月中旬下旬の田植えほ場では、6月20日以降に葉数と葉色が急激に増加している。現時点の予想では、出穂期は概ね平年並、前年に比べ3日程度遅くなる見込み。 （糸魚川地域農林振興部 6月30日付）</p> <p>（佐渡） 6月30日現在、コシヒカリ（拠点ほ場6カ所の平均）の生育状況は、草丈は36cm（指標値比75%）で短い、葉数は544本/m²（指標値比118%）と増加傾向で指標値より多、葉数は9.6葉（指標値差-0.4葉）、葉色（SPAD値）は37.0（指標値差-2.0）で、ほ場のバラつきあり。早生品種の出穂は平年より3日程度遅れる見込み。 （佐渡農業普及指導センター 6月29日付）</p> <p>（岩船） 6月29日現在、草丈は短い、葉数はやや少ない、葉数はやや遅い、葉色は並。出穂期は早生・中生ともに平年並3日程度遅れる予想。葉数は全般的に回復傾向。葉色は田植え時期や7月の発生状況によりほ場差・地域差がある。コシヒカリ（調査7カ所の平均）の生育状況は、草丈は36cm（指標比78%）、葉数は406本/m²（指標比91%）、葉数は9.1葉（指標差-0.6葉）、葉色（SPAD値）は38.5（指標差+0.6）。 （村上農業普及指導センター 6月29日現在）</p> <p>（南魚沼） 6月29日現在、コシヒカリ（生育調査地点14カ所の平均）の生育状況は、草丈は30cmで短く（指標値比86%）、葉数は298本/m²でやや少ない（指標値比92%）、葉色（SPAD値）は37.2で並（指標値差-0.8）、葉数は7.5葉で並（指標値差+0.0）。5月中旬以前に田植えしたほ場では、十分な葉数が確保されている。 （南魚沼地域振興局農林振興部普及課 6月22日付）</p>	<p>・7月の病害虫の発生量は、葉いもちはやや少ない、紋枯病、稲こらじ病、ニカメイチュウ、セジロウカ、ツマグロヨコイ、斑点米カメムシ類は平年並、イネアオムシはやや少ない、コマメイガ、コバネイナゴは平年並と予報 （新潟県病害虫防除所 6月29日公表）</p> <p>・北陸でイネいもち病（葉いもち）とイネミズゾウムシの発生が「多い」と予想 （農林水産省 6月14日付）</p>
<p>富山</p>	<p>（生育）</p> <p><生育観測ほデータ（7月4日現在）></p> <p>（てんたく） 平年に比べ、葉齢の展開がやや遅れており、草丈は60.4cm（平年比92%）でやや短く、葉数は661本/m²（平年比129%）で多く、葉色（SPAD値）は40.3（平年並+1.9）でやや濃くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈はやや短く、葉数は多く、葉色はやや濃く推移している。幼穂形成期は、平年より1日遅い7月1日となり、出穂期は、7月23日頃と見込まれる。</p> <p>（コシヒカリ） 平年に比べ、葉齢の展開がやや遅れており、草丈は53.8cm（平年比87%）で短く、葉数は615本/m²（平年比121%）でかなり多く、葉色（SPAD値）は38.8（平年並+2.0）でやや濃くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈はやや短く、葉数は多く、葉色はやや濃く推移している。生育量（草丈×m²×葉数×葉色×1000）の平均値は、141とやや大きめに推移しているが、94から186とばらつきが大きくなっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年より1日程度遅い7月13日頃、8月4日頃と見込まれる。</p> <p>（てんこもり） 平年に比べ、葉齢の展開がやや遅れており、草丈は45.7cm（平年比84%）で短く、葉数は728本/m²（平年比112%）で多く、葉色（SPAD値）は40.1（平年並+1.5）で平年並となっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は短く、葉数は多く、葉色は平年並で推移している。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ平年より1日程度遅い7月16日頃、8月8日頃と見込まれる。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月4日付）</p> <p><直播栽培の生育状況（6月28日現在）></p> <p>・湛水上中直播栽培（カルバー）は、平年に比べ、葉齢の展開はやや遅れており、草丈はかなり短く、葉数は多く、葉色はやや濃くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は短く、葉数は多く、葉色はやや濃く推移している。</p> <p>・湛水表面直播栽培（鉄）は、近年に比べ、葉齢の展開はやや遅れており、草丈は短く、葉数はやや多、葉色はやや濃くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は短く、葉数はやや多、葉色はやや濃く推移している。</p> <p>・乾田V溝直播栽培は、平年に比べ、葉齢の展開はやや遅れており、草丈は短く、葉数は多く、葉色は並となっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は短く、葉数は多く、葉色は平年並に推移している。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 6月28日付）</p>	<p>・7月の病害虫の発生量は、葉いもち、穂いもち、紋枯病、稲こらじ病はやや多いと予報。斑点米カメムシ類のアカヒゲホシドリカスミカメはやや多い、アカシジカスミカメ、トゲシラホシカメムシは多いと予報。ニカメイガ（第2世代）は発生時期が早く発生量は平年並、ツマグロヨコイ、ヒメトビウカは平年並、セジロウカ、イネアオムシ、イナゴ類は少ないと予報 （富山県農林水産総合技術センター 6月30日公表）</p> <p>・北陸でイネいもち病（葉いもち）とイネミズゾウムシの発生が「多い」と予想 （農林水産省 6月14日付）</p>

	平年に対する遅速等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
石川	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆめみづほの出穂期は、加賀地域の平坦部で7月18～22日頃と近年並～3日程度遅く、能登地域（羽咋～中能登）は7月24日頃と近年に比べ3～5日程度遅く見込まれる。また、能登地域（奥能登～珠洲）の能登ひかりの出穂期は、7月26～28日頃と近年より3日、前年より9日程度遅く見込まれる。 コシヒカリの葉齢は、県平均-0.4葉（県平均97%、加賀-0.3葉、能登-0.4葉）となっている。コシヒカリの葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べて3～4日程度遅いと見込まれる。 草丈は、コシヒカリは平年比97%（加賀地域97%、能登地域95%）と加賀地域は平年並、能登地域は平年に比べやや短い。ゆめみづほは近年比84%（加賀地域84%、能登地域85%）といずれの地域も近年に比べ短い。 mあたりの莖数は、コシヒカリは平年比112%（加賀地域111%、能登地域113%）と加賀地域、能登地域とも平年に比べやや多い。最高分け時期は、県下の調査地点の内、加賀地域のコシヒカリ、ゆめみづほについては約半数の圃場で達しているが、能登地域については、いずれの品種も達しておらず、いずれの地域も平年及び前年に比べ遅れており、特に能登地域で遅れている。 葉色は、コシヒカリは平年並の4.2（葉色板値）となっている。（農林総合研究センター 6月28日調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 6月下旬～7月中旬の病害虫の発生量は、葉いもちは平年並、紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類は多、セジロウカとコブノメイガは平年並、フタオビコヤガは平年並と予報（石川県農林総合技術センター 6月15日公表） 北陸でイネいもち病（葉いもち）とイネミズゾウムシの発生が「多い」と予想（農林水産省 6月14日付）
福井	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月29日調査の結果、6月が低温で経過したため、ハナエチゼンは2～3日遅く幼穂形成期を迎えている。移植コシヒカリでも分けつが平年を上まわっている。（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 6月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、葉いもちは、早・中穂いもちちは平年並、白葉枯病は平年よりやや多く、紋枯病は平年より多く、ニカメイガは平年よりやや少なく、ツマグロヨコバイは平年より多く、セジロウカ、イネゾウムシ、イネアオムシは平年並と予報（福井県農業試験場病害虫防除室 6月29日公表） 北陸でイネいもち病（葉いもち）とイネミズゾウムシの発生が「多い」と予想（農林水産省 6月14日付）
長野	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月30日現在、安曇野市豊科水稲奨励区（5月16日田植）での生育状況は、コシヒカリの草丈は46cm（平年比94%）、莖数は894本/m²（平年比108%）。あきたこまちの草丈は43cm（平年比86%）、莖数は823本/m²（平年比115%）。6月29日現在、D.V.Iによる生育進捗度は「平年より2～3日遅い」と推定している。（松本農業改良普及センター） 6月29日調査の結果、農業試験場水稲試験圃（須坂市八重森（標高348m））の移植後40日の生育は、「あきたこまち」、コシヒカリとも葉数は少なく、草丈も短い。莖数は平年に比較して85%程度である。（長野県農業試験場 6月29日調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 6月15日からの向こう1か月間、葉いもち、縞葉枯病・黒条萎縮病、ツマグロヨコバイ第1回成虫（黄萎病）の発生量は平年並、ニカメイチュウ第1世代幼虫の発生量はやや少、イナゴ・イネトロオウムシ、イネミズゾウムシの発生量は平年並の予報（長野県病害虫防除所 6月15日公表）
滋賀	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月20日現在、全般に草丈は短いものの、莖数が多く、葉色・葉齢は平年並となっている。ただし、移植日やほ場条件により生育の差は大きい。「コシヒカリ」では、5月10日移植の幼穂形成期は7月6日頃と予測される。「コシヒカリ」、「秋の詩」の草丈は、ともに平年より短かった。莖数は、商品種ともに前回調査時（6月10日）に比べて急激に増加した。「コシヒカリ」は平年より約20%、「秋の詩」は平年より30%多かった。葉数は、商品種ともに平年並であった。 5月上旬移植の「みずかがみ」では、6月25日前後に幼穂形成期を迎えている。（滋賀県農業技術振興センター 6月27日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫の発生量は、葉いもち、穂いもち、紋枯病、白葉枯病、ニカメイガ(Ⅱ)、セジロウカは平年並と予報、ヒメトビウカと斑点米カメムシ類は発生時期が早く発生量はやや多い、ツマグロヨコバイは平年並、イチモンジセセリ、フタオビコヤガはやや少と予報（滋賀県病害虫防除所 7月4日公表）
兵庫	<p>(育苗・田植)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月1日現在、県北は本田での生育はほぼ順調である。県南は苗の生育は順調である。（兵庫県農政環境部 6月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の葉いもち、ばか苗病の発生量は平年並、ヒメトビウカ（縞葉枯病）の発生量はやや多、セジロウカ、トビウカの発生量は平年並の予報（兵庫県病害虫防除所 5月30日公表）
岡山		<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、葉いもち、穂いもちちは平年並、紋枯病はやや多、ヒメトビウカ、縞葉枯病は平年並、ツマグロヨコバイ、セジロウカはやや少、ニカメイガ、トビウカ、斑点米カメムシ類は平年並と予報（岡山県病害虫防除所 7月3日公表）
広島		
山口	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月3日定点調査結果による生育状況は、各品種とも、おおむね過去の平均と同程度の生育状況となっている。5月中旬までに移植したコシヒカリ等では、概ね最高分け時期となった。好天により莖数はやや多くなっている。深水等が続くほ場では、葉が長く莖姿が乱れ、莖数がやや少なくなっている。 コシヒカリ（5月13日移植）の草丈は55.6cm、莖数は36.1本/株、葉齢の進み具合は9.2葉、ひとめぼれ（5月21日移植）の草丈は49.1cm、莖数は17.5本/株、葉齢の進み具合は8.6葉、きぬむすめ（6月3日移植）の草丈は46.3cm、莖数は18.9本/株、葉齢の進み具合は8.1葉。（JA長門大津、長門農林事務所農業部 7月5日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、葉いもち、紋枯病は平年並、ヒメトビウカ、セジロウカはやや多、トビウカ、コブノメイガは平年並、斑点米カメムシ類ははやや多の予報（山口県病害虫防除所 7月3日公表）
愛媛	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月は早期栽培のコシヒカリ、あきたこまちは種肥の施用時期にあたる。早期栽培は、幼穂形成から出穂・開花期を迎える。（愛媛県農林水産研究所 7月6日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、普通期栽培の葉いもち、早期栽培の葉いもち・穂いもちちは平年並からやや多、紋枯病は平年並、セジロウカ、コブノメイガ、イチモンジセセリ（イネゾウムシ：第2世代）、斑点米カメムシ類はやや少と予報（愛媛県 6月30日公表） 四国でイネいもち病（葉いもち）とツマグロヨコバイの発生が「多い」と予想（農林水産省 6月14日付）
高知	<p>(生育)</p> <p><早期水稲の生育状況（5月30日時点）> 生育進捗度は4月5日植え南国そだちとコシヒカリではやや遅れ気味だが、4月14日植えコシヒカリでは平年並となった。全体的に莖数が多いが、問題なく生育している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月5日植えの南国そだちは、草丈は平年より高く、莖数は平年より多く、葉齢でみた生育進捗度は平年よりやや遅くなっている。 4月5日植えのコシヒカリは、草丈は平年より高く、莖数は平年より多く、葉齢でみた生育進捗度は平年よりやや遅くしている。 4月14日植えのコシヒカリは、草丈は平年より高く、莖数は平年より多く、葉齢でみた生育進捗度は平年並となっている。（高知県農業技術センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 四国でイネいもち病（葉いもち）とツマグロヨコバイの発生が「多い」と予想（農林水産省 6月14日付） 6月の病害虫の発生量は、葉いもちは平年並、ツマグロヨコバイは県中央部と県西部で多く、県東部と県中西部ではやや少ない、セジロウカは平年並、ヒメトビウカはやや少の予報（高知県病害虫防除所 6月6日公表）
福岡	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期水稲の生育は順調で有効葉は確保され、中干し時期となっている。出穂期は平年比3～4日早い7月中旬の見込み。 普通期水稲は、5月中旬～6月上旬植えは、田植え後高温で経過したため活着がよく、生育は順調。平坦地の「夢つくし」は6月上旬、「元気づくし」は6月中旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が田植えの最盛期となる見込み。（福岡県農林業総合試験場 平成29年6月15日現在（専技情報より抜粋）） 	<ul style="list-style-type: none"> 7月のセジロウカ、トビウカの発生量は平年並と予報（福岡県病害虫防除所 6月30日公表）
熊本		<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、早期水稲の穂いもちちはやや少、早稲水稲の葉いもちちはやや少、普通期水稲の葉いもちちは平年並と予報。早稲水稲・普通期水稲のツマグロヨコバイ、ヒメトビウカ、トビウカは平年並、セジロウカはやや少と予報、早期・早稲水稲の紋枯病は平年並、普通期のコブノメイガは平年並と予報。水稲全般の縞葉枯病は少ないと予報。（熊本県病害虫防除所 6月30日公表）
宮崎		<ul style="list-style-type: none"> 向こう1か月間の病害虫の発生量は、早期水稲の葉いもちちはやや少、紋枯病、ツマグロヨコバイは平年並、セジロウカはやや少、ヒメトビウカは平年並、斑点米カメムシ類はやや多と予報。普通期水稲の葉いもち、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、ヒメトビウカは平年並、スクミリンゴガイはやや少と予報。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月27日公表）
鹿児島		<ul style="list-style-type: none"> 7月の病害虫の発生量は、早期水稲の穂いもち、紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類ははやや多と予報。普通期水稲の葉いもちは平年並と予報。（鹿児島県病害虫防除所 7月3日公表）

注1：地方自治体及び出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標					収穫量（主食用） 28年度	作況指数 28年度
		参考			自主的取組参考値（深堀）	↑		
		平成29年度	前年度との比較	増減率				
		t	t	%				
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 7月8日～8月7日の1か月間は、西日本と沖縄・奄美では期間の前半、北・東日本では期間のはじめは、気温がかなり高くなる所があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込み。日照時間は、西日本太平洋側で平年並が多く、北・東日本、西日本日本海側、沖縄・奄美ではほぼ平年並の見込み。（気象庁 7月6日発表） （7～9月の3か月間の見通し） 7月～9月の向こう3か月の気温は全国的に高い見込み。降水量は、北日本はほぼ平年並、東・西日本は平年並が多い見込み。（気象庁 6月23日発表） 	7,350,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,330,000	7,496,000	103	
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間のはじめは気温が平年よりかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は平年より高い見込み。降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。（札幌管区気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」北海道地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.1℃以上）（札幌管区気象台 7月3日発表） 	535,669	▲ 5,831	▲ 1.1	534,212	545,500	102	
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間のはじめは気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。（仙台管区気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」東北地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.2℃以上）（仙台管区気象台 7月3日発表） 東北地方は6月21日ごろに梅雨入りしたと見られる。（気象庁 6月21日発表） 	237,294	▲ 2,583	▲ 1.1	236,649	222,300	104	
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	265,432	▲ 2,889	▲ 1.1	264,710	254,300	102	
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	341,193	▲ 3,713	▲ 1.1	340,264	352,300	105	
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	408,644	▲ 4,448	▲ 1.1	407,532	409,600	104	
山 形	同上（仙台管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	337,160	▲ 3,670	▲ 1.1	336,243	345,300	103	
福 島	同上（仙台管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	332,316	▲ 3,617	▲ 1.1	331,412	333,600	102	
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間のはじめは気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。（気象庁 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」関東甲信地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.5℃以上）（気象庁 7月3日発表） 関東甲信地方は6月7日ごろに梅雨入りしたと見られる。（気象庁 6月7日発表） 	330,182	▲ 3,594	▲ 1.1	329,284	350,100	99	
栃 木	同上（気象庁 7月6日発表、7月3日発表、6月7日発表）	292,326	▲ 3,182	▲ 1.1	291,531	295,300	102	
埼 玉	<ul style="list-style-type: none"> 渡良瀬川では、6月23日から10%の取水制限（農業用水）が実施されている。（国土交通省 6月22日） 同上（気象庁 7月6日発表、7月3日発表、6月7日発表） 	148,047	▲ 1,612	▲ 1.1	147,644	154,100	101	
千 葉	同上（気象庁 7月6日発表、7月3日発表、6月7日発表）	241,239	▲ 2,625	▲ 1.1	240,582	295,900	102	
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間のはじめは、気温がかなり高くなる所があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。（新潟地方気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」北陸地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.2℃以上）（新潟地方気象台 7月3日発表） 北陸地方は6月21日ごろに梅雨入りしたと見られる。（気象庁 6月21日発表） 	510,184	▲ 5,553	▲ 1.1	508,796	589,700	108	
富 山	同上（新潟地方気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	181,695	▲ 1,977	▲ 1.1	181,200	191,300	106	
石 川	同上（新潟地方気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	120,996	▲ 1,317	▲ 1.1	120,667	123,900	104	
福 井	同上（新潟地方気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月21日発表）	122,787	▲ 1,337	▲ 1.1	122,453	126,300	104	
長 野	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間のはじめは気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。（気象庁 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」関東甲信地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.5℃以上）（気象庁 7月3日発表） 木曾川では、6月30日から22.2%の取水制限（農業用水）が実施されている。（国土交通省 7月3日） 関東甲信地方は6月7日ごろに梅雨入りしたと見られる。（気象庁 6月7日発表） 	189,867	▲ 2,066	▲ 1.1	189,350	197,800	101	

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
滋 賀	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の7月8日～8月7日の1か月間は、平均気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込み。日照時間は、日本海側ではほぼ平年並、太平洋側では平年並が多い見込み。（大阪管区気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」近畿地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.1℃以上）（大阪管区気象台 7月3日発表） 近畿地方は、6月7日ごろに梅雨入りしたとみられる。（大阪管区気象台 6月7日発表） 	157,032	▲ 1,709	▲ 1.1	156,604	161,300	104
兵 庫	同上（大阪管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月7日発表）	176,596	▲ 1,922	▲ 1.1	176,115	177,400	100
岡 山	<ul style="list-style-type: none"> 中国地方の7月8日～8月7日の1か月間は、1週目と2週目の気温は高く、3～4週目は平年並か高い見込み。向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。（広島地方気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」中国地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.1℃以上）（広島地方気象台 7月3日発表） 中国地方は6月7日ごろに梅雨入りしたとみられる。（広島地方気象台 6月7日発表） 	155,172	▲ 1,689	▲ 1.1	154,750	155,600	101
広 島	同上（広島地方気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月7日発表）	127,201	▲ 1,384	▲ 1.1	126,855	124,300	102
山 口	<ul style="list-style-type: none"> 九州北部地方（山口県含む）の7月8日～8月7日の1か月間は、平均気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。（福岡管区気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」九州北部地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.8℃以上）（福岡管区気象台 7月3日発表） 九州北部地方（山口県を含む）は、6月6日ごろに梅雨入りしたと見られる。（福岡管区気象台 6月6日発表） 	106,443	▲ 1,158	▲ 1.1	106,153	101,400	102
愛 媛	<ul style="list-style-type: none"> 四国地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間のはじめは気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。（高松地方気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」四国地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.7℃以上）（高松地方気象台 7月3日発表） 右手川では、7月1日から22.2%の取水制限（農業用水）が実施されている。吉野川では20%の取水制限（農業用水）が継続中。（国土交通省 7月3日） 四国地方は6月7日ごろに梅雨入りしたとみられる。（高松地方気象台 6月7日発表） 	72,345	▲ 788	▲ 1.1	72,148	72,100	102
高 知	同上（高松地方気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月7日発表）	49,003	▲ 534	▲ 1.1	48,870	53,100	100
福 岡	<ul style="list-style-type: none"> 九州北部地方（山口県含む）の7月8日～8月7日の1か月間は、平均気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。（福岡管区気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」九州北部地方では、7月8日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.8℃以上）（福岡管区気象台 7月3日発表） 九州北部地方（山口県を含む）は、6月6日ごろに梅雨入りしたと見られる。（福岡管区気象台 6月6日発表） 	178,582	▲ 1,944	▲ 1.1	178,097	177,400	100
熊 本	同上（福岡管区気象台 7月6日発表、7月3日発表、6月6日発表）	185,277	▲ 2,016	▲ 1.1	184,773	171,300	102
宮 崎	<ul style="list-style-type: none"> 九州南部・奄美地方の7月8日～8月7日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。（鹿児島地方気象台 7月6日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」九州南部・奄美地方では、7月11日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.3℃以上）（鹿児島地方気象台 7月6日発表） 九州南部は6月6日ごろに梅雨入りしたと見られる。（鹿児島地方気象台 6月6日発表） 	91,606	▲ 997	▲ 1.1	91,357	77,200	100
鹿 児 島	同上（鹿児島地方気象台 7月6日発表、6月6日発表）	108,704	▲ 1,183	▲ 1.1	108,408	97,600	100

出所(原資料)：

平成29年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成28年度産水陸稲の収穫量(農林水産省)
平成29年度病害虫発生予報第3号(農林水産省)

農作物の生育状況 6月15日現在(北海道6月20日)、農作物生育状況 6月15日現在(北海道空知総合振興局 6月20日)、
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道石狩振興局 6月20日)、農作物の生育状況 6月15日現在(北海道後志総合振興局 6月20日)、
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道胆振総合振興局 6月20日)、農作物の生育状況 6月15日現在(北海道日高振興局 6月20日)、
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道渡島総合振興局 6月20日)、農作物の生育状況 6月15日現在(北海道檜山振興局 6月20日)、
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道上川総合振興局 6月20日)、農作物生育状況調査の概要 6月15日現在(北海道留萌振興局 6月20日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 6月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 6月20日)、
平成29年度病害虫発生予察情報第7号7月予報(北海道病害虫防除所 6月29日)、
稲作生産情報第5号(青森県 7月5日)、

H29水稲作況(6月30日現在)作況調査報告(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月4日)、

平成29年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(青森県病害虫防除所 6月28日)、
平成29年度水稲生育定期調査結果No.3(6月26日現在)(岩手県農業研究センター 6月28日)、
農作物技術情報第4号水稲(岩手県 6月29日)、

平成29年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月予報)(岩手県病害虫防除所 6月28日)、
平成29年度産水稲の生育状況について(6月30日現在)(宮城県農林水産部 7月3日)、
栗原の稲作通信平成29年第4号(栗原農業改良普及センター 7月4日)、

登米地域の稲作通信第5号(宮城県米づくり推進登米地方本部登米農業改良普及センター 7月4日)、

平成29年度産大崎稲作情報第3-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月3日)、

平成29年度産 美里地区の稲作情報第4号(宮城県美里農業改良普及センター 7月3日)、

平成29年度産 気仙沼・南三陸稲作情報第5号(宮城県本吉農業改良普及センター 6月30日)、

仙台稲作情報第3号(宮城県仙台農業改良普及センター 6月23日)、

稲作情報(Vol.3)(石巻農業改良普及センター石巻地方米づくり推進本部 6月22日)、

平成29年度発生予察情報注意報第2号(宮城県病害虫防除所 7月5日)、

平成29年度発生予察情報発生予報第5号-水稲-(宮城県病害虫防除所 6月23日)、

生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 6月30日)、

平成29年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 6月30日)、

米づくり技術情報No.5(オールやまがた米づくり日本一運動本部 6月30日)、

おいしい米づくり情報第7号(オールやまがた米づくり日本一推進運動村山地域本部村山農業技術普及課 7月5日)、

つや姫通信第4号穂肥準備編(村山総合支庁農業技術普及課 7月3日)、

つや姫より第4号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日)、おいしい米づくり情報第8号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日)、

おいしい米づくり情報第9号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日)、水稲直播情報第3号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日)、

稲作より第6号(JAさがえ西村山JAさがえ西村山水稲部会 村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、

つや姫情報穂肥特集号(JAさがえ西村山JAさがえ西村山水稲部会 村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、

酒田・飽海日本一米づくり情報第7号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月3日)、

酒田飽海つや姫情報第5号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月3日)、

稲作より第7号(最上総合支庁農業技術普及課 6月30日)、

おきたま米づくり情報【号外】(オールやまがた米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 6月26日)、

稲作より第5号(オールやまがた米づくり日本一運動村山地域実践本部(北村山農業技術普及課 6月23日)、

平成29年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第4号(7月)(山形県病害虫防除所 6月28日)、

主要な農作物の生育情報平成29年度第3号(福島県農林水産部 6月14日)、平成29年度病害虫発生予察情報発生予報第3号(6月)(福島県病害虫防除所 6月29日)、

農研速報 水稲の生育状況(6月30日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 7月5日)、

農研速報 水稲の生育状況(6月27日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 7月5日)、

病害虫発生予察注意報第1号(茨城県病害虫防除所 6月12日)、病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所 6月29日)、

平成29年度水稲生育診断予測事業速報No.3(早植栽培6月22日調査結果)(栃木県 6月26日)、

平成29年度病害虫発生予報第3号(栃木県農業環境指導センター 6月16日)、

平成29年度水稲の生育概況vol.1(埼玉県農業技術研究センター 6月19日)、平成29年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所 6月28日)、

水稲の生育状況と今後の管理対策(千葉県農林水産部 6月28日)、平成29年度病害虫発生予報第3号(千葉県農林総合研究センター 6月14日)、

水稲の生育状況と今後の管理対策(第4号)(新潟県農林水産部 6月30日)、

稲作情報No.4津南町版(十日町地域農業振興協議会 JA十日町・JA津南町・十日町市・津南町・中魚沼NOSAIセンター・十日町農業普及指導センター 7月6日)

稲作情報No.4十日町版(十日町地域農業振興協議会 JA十日町・JA津南町・十日町市・津南町・中魚沼NOSAIセンター・十日町農業普及指導センター 7月6日)

6/29稲作生育速報(十日町地域)(十日町農業普及指導センター 6月29日)、

平成29年度「上越地域米」栽培技術情報No.6(上越農業普及指導センター 7月6日)、

平成29年度上越地域米 コシヒカリ・こしいぶき 生育速報(6月29日)(上越農業普及指導センター 6月29日)、

水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月29日付)、

稲作情報No.4(長岡農業普及指導センター 6月22日)、

新発田地域水稲生育速報No.4(新発田農業普及指導センター 6月29日)、

稲作速報No.4(新潟農業普及指導センター 6月29日)

水稲生育速報(巻農業普及指導センター 6月29日)、

FAX稲作情報No.7(三条農業普及指導センター 6月29日)、

コシヒカリ生育情報(魚沼農業普及指導センター 6月29日)、

稲作管理情報No.4(柏崎農業普及指導センター 6月30日)、

柏崎地域「新之助」栽培情報No.4(柏崎農業普及指導センター 6月30日)、

平成29年度糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報NO.4(糸魚川地域農林振興部 平成29年6月30日)、

平成29年度稲作生育速報No.4(佐渡農業普及指導センター 6月29日)、

H29岩船米生育速報(6月29日現在)(村上農業普及指導センター 6月29日)、

稲作情報No.5(南魚沼農業普及指導センター 6月22日)、

平成29年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第4号(7月の発生予想)(新潟県病害虫防除所 6月29日)、

TACS情報第6号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月4日)、直播情報(第4号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 6月28日)、

病害虫発生予報第4号(富山県農林水産総合技術センター 6月30日)、

平成29年度産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月28日)、

病害虫発生予報第3号(石川県農林総合研究センター 6月15日)、

稲作情報No.9(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会(農業試験場、福井米戦略課、組員トータルサポートセンター、JA経済連、主要農作物振興協会) 6月30日)、

平成29年度農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月29日)、

平成29年度作物技術普及情報第10号(松本農業改良普及センター)、

水稲の生育状況(平成29年度)(長野県農業試験場 6月29日)、

病害虫発生予報第3号(長野県病害虫防除所 6月15日)、

平成29年度水稲生育診断情報No.2(滋賀県農業技術振興センター 6月27日)、

平成29年度病害虫発生予報第6号(滋賀県病害虫防除所 7月4日)、

平成29年度兵庫県農業気象技術情報第2号(6月情報)について(兵庫県農政環境部 6月1日)、平成29年度病害虫発生予察予報第2号(兵庫県病害虫防除所 5月30日)、

平成29年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 7月3日)、

稲作フロンティアアドバイス(No.3)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 7月5日)、農作物病害虫発生予報7月(山口県病害虫防除所 7月3日)、

気象情報に基づく技術対策・作物平成29年7月(愛媛県農林水産研究所 7月6日)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県 6月30日)、

平成29年度における早期水稲の生育状況(5月30日時点)(高知県農業技術センター 6月12日)、

平成29年度病害虫発生予察予報第3号(6月)(高知県病害虫防除所 6月6日)、

福岡県の主な農作物の生産状況(専任情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 6月15日)、

平成29年度病害虫発生予報第4号(7月)(福岡県病害虫防除所 6月30日)、

平成29年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 6月30日)、

平成29年度病害虫発生予報第3号(富崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月29日)、

平成29年度病害虫発生予報4号(鹿児島県病害虫防除所 7月3日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、

北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、

四国地方方向こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)、

全国向こう3か月の天候の見通し・全国向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、

異常天候早期警戒情報(気象庁 7月6日、7月3日)

梅雨の時期に関する関東甲信地方気象情報1号(気象庁)、梅雨の時期に関する近畿地方気象情報1号(気象庁)

梅雨の時期に関する中国地方気象情報1号(気象庁)、梅雨の時期に関する四国地方気象情報1号(気象庁)

梅雨の時期に関する九州北部(山口県含む)気象情報1号(気象庁)、梅雨の時期に関する九州南部・奄美地方気象情報2号(気象庁)

梅雨の時期に関する東北地方気象情報1号(気象庁)、梅雨の時期に関する北陸地方気象情報1号(気象庁)

平成29年度農業用水情報(第12報)(栃木県 6月23日)

平成29年度渇水状況について(7月3日現在)(国土交通省)